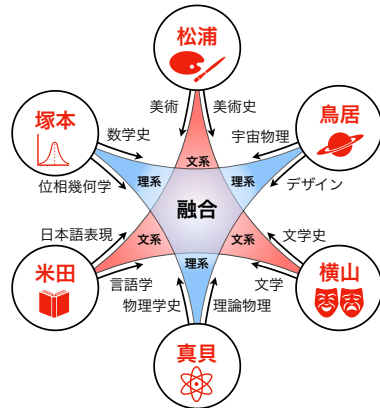


### 天文文化学の創設: 天文と文化遺産を結ぶ文理融合研究の加速

Establishment of cultural astronomy: Acceleration and integration of arts and sciences on cultural heritage, astronomical phenomena, and mathematical understanding



代表 真具寿明 大阪工大情報科学部  
 分担 松浦清 大阪工大工学部  
 米田達郎 大阪工大工学部  
 横山恵理 大阪工大情報科学部  
 鳥居隆 大阪工大R&D学部  
 塚本達也 大阪工大工学部

文系と理系の研究分野の垣根を越えて,  
 「天文と文化」をキーワードにした  
 横断的な学問分野を創始する

### 天文文化学の創設: 天文と文化遺産を結ぶ文理融合研究の加速



星曼荼羅図 法隆寺



星曼荼羅図 大阪・久米田寺

「天文」をキーワードにつながる文化遺産を対象にして,  
 空間軸(地域軸)や時間軸(歴史軸),あるいは文化的尺度を  
 導入して,研究分野としての視点の拡大を進める。

- \* 星曼荼羅を中心とする密教絵画の占星術的役割と經典の数式化
- \* 月が描かれている絵画の時間表現
- \* 宿曜経算曜直章の計算式における数学的意義
- \* 日本における近代物理学の受容, 窮理から物理への過程
- \* 文学作品における星の表現と意味
- \* 文学作品における虚空蔵菩薩信仰, 陰陽道
- \* 時間・空間およびトポロジカルな概念のとらえ方の進展
- \* 天球儀・渾天儀を軸に見た天文学史の文化交流

年に1回/2回の研究会開催

一冊の本にまとめる?  
 博物館・科学館などで成果の展示?

### ウェブページつくりました

<http://www.oit.ac.jp/is/shinkai/tenmonbunka/>

### メーリングリストつくりました

[tenmon-bunka@googlegroups.com](mailto:tenmon-bunka@googlegroups.com)

登録申し込みは  まで

### ロゴマークつくりました

天文文化ロゴマーク <http://www.oit.ac.jp/is/shinkai/tenmonbunka/logo.html>



#### マークの由来

まず、マークですが、中央にある同じ大きさの7つの円は北斗七星を表しています。右から2番目のミザールはアルコルと二重星または連星をなす星です。星曼荼羅ではアルコルを北斗七星の「補星(ほせい)」として描き、北斗八星とする表現をしばしば目にします。そこでマークにもアルコルを描き入れました。これらの北斗八星の大きさ、位置関係などは、天文文化学の創始者ともえる松浦が所蔵する実際の星曼荼羅を元としています。

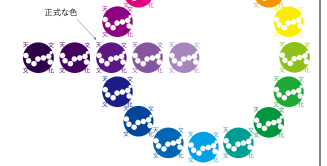
北天に位置する北斗八星(七星)は天帝の乗り物と解釈されるので、北斗八星を包むように天帝を意味する大きな円を配しました。また、後にも記しますが、マークの正式なカラーは紫(バイオレット)としています。紫は北天の紫微垣(しびえん)との関連を示し、天帝の座を意味する色です。

一方、ロゴマークはその四角(対角)に「天・文・文・化」の文字を配しました。これによって描かれていない正方形が浮かんで、曼荼羅を意図したものになっています。文字は縦に読んでも横に読んでも「天文文化」になります。天の活動である「天文」と地の活動である「文化」の融合を表しています。

このマーク、およびロゴマークの色は正式な場合は紫としますが、通常の使用では特定の色を指定しません。また、背景は透明とします。つまり、マーク(ロゴマーク)は文字を含めたこの「形状のみ」を指すことになります。

天文文化学は文系や理系を問わず、様々な研究分野が融合して協働で研究を進めていく分野です。北斗八星はそれぞれの研究分野を表し、それらが天文文化というテーマを表す大きな円の中で(たまにははみ出しても)、相互作用をしながら新たな展開を目指していく、そのようにこのマーク、およびロゴマークを眺めていただけたら幸いです。(鳥居隆)

「天文文化」のロゴマーク



全色無料でダウンロード可